●「SHINWA WALK～伝説そぞろ歩き」は、「ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、郷土の神話、伝説、民話の足跡をたどるロマン紀行です。新しい伝説の世界をお楽しみください。

SHINWA WALK 21

21st Letter

熱田神楽伝説2（奉納復活エピソード）

伝説そぞろ歩き

百年の
時越えて今
よみがえる
横笛響き
悲願達成

100年ぶりに奉納復活
神楽伝承は師匠への恩返し

前回「熱田神楽は約1900年近い伝統があり、熱田神宮でも古くから奉納されていました」と書きましたが、実は明治初期以降、大正、昭和まで約100年にわたって、熱田神宮で奉納されない時代がありました。

日本には昔から神仏混交を良とする考え方がありましたが、明治以降、神仏分離の方向に進む中、神社では寺院とは一線を画すべく格式が重んじられるようになりました。熱田神宮でも明治初期からは奉納には宮廷神楽の雅楽が用いられるようになり、熱田神楽は奉納されなくなってしまったのです。

▲熱田神楽保存会の会長であり師匠でもある石川来民造さん。

熱田神楽保存会会長の石川来民造（きみぞう）さんも「熱田神楽の熱田神宮での奉納復活は先代の荒川関三郎師匠、先々代の加藤鎌吉師匠からの願いでした。『昭和11年の熱田神宮式年遷宮の時も御垣内（みかきうち）参拝はさせてもらいましたが奉納は叶いませんでした』と荒川師匠から聞いています」と語っています。

石川さんが熱田神楽と出会ったのは、中学3年の時です。荒川師匠のもとに弟子入り。毎晩練習に通い、一節一節覚えていったといいます。ところが昭和46年、石川さんが20歳の時、荒川師匠が急死。周りの長老連中から後継者に指名され、熱田神楽を継承しましたが、その後も熱田神楽が熱田神宮で奉納されることはありませんでした。

時は流れ平成へ。歴史は突然動きます。石川師匠が熱田神宮の岡本健二宮司と歓談している時、「正統な熱田神楽を奉納してほしい」と直々に要請されたのです。奉納の日程は、天皇誕生日が変更されたことでみどりの日になった4月29日に決定しました。

そして、平成元年4月29日。熱田神楽が約100年ぶりに熱田神宮の境内に響きわたります。その日は熱田神楽保存会が発足された日でもありました。

石川会長は「熱田神楽伝承は師匠への恩返しです。これからも心を伝えていきたい」と伝承への思いを語ります。

ゼウスの作戦が奏効し復活
そこにはつながりの絆が

ギリシャ神話にも復活物語があります。宇宙の主となったクロノスは妹のレアと結婚し、子宝に恵まれます。後に炉の女神となるヘスティア、後に穀物の女神となるデメテル、後にゼウスの妃となるヘラ、後に冥界の神となるハデス、後に海の神となるポセイドンです。ところが、クロノスは、これらの子供たちを、生まれるとすぐに妻から取り上げ、飲みこんでしまったのです。

なぜなら、両親であるウラノスとガイアから、「お前は自らの息子によって王位を奪われるだろう」と予言されていたからです。子供が生まれてもすぐに飲みこんでしまうことで、自分の運命を変えようとしたのです。

このままでは自分の子供の成長が見られないことを残念に思ったレアは、ウラノスとガイアに相談します。そして教えに従って、夜の間にクレタ島に行き、こっそりお産をして、生まれた赤ちゃんをガイアに預けました。この赤ちゃんこそがゼウスです。そして大急ぎでクロノスのもとに帰り、大きな石を産着に包んでクロノスに渡したのです。クロノスはその石をてっきり本当の赤ん坊だと思いこんで、飲みこみました。

ゼウスはクレタ島ですくすくと成長し、ガイアの教えに従って、クロノスのお腹に飲みこまれている兄や姉たちを助け出すために、知恵の女神・メティスに協力を求めました。彼女はゼウスの相談を聞き入れ、知恵をうまく使ってクロノスに吐き薬を飲ませることに成功。クロノスは口から最初にゼウスの身代わり石を吐き出し、それから兄や姉たちを次々に吐き出しました。こうして彼らは父のお腹から出たことで、復活を果たし、二度目の誕生をしたのです。

100年の時を経てよみがえった熱田神宮での熱田神楽奉納。そして、ゼウスの作戦が功を奏し父クロノスのお腹から脱出して復活したゼウスの兄と姉たち。どちらもそこには復活を願うキーパーソンの強い信念とつながりの絆が存在していました。

※次回は、七所神社伝説について特集します。
お楽しみに。

■ 写真／Kiyoshi K　■ イラスト／Rei　■ 取材・文／Icarus